

社長 第84回 INTERVIEW

人に支えられた半世紀

(株)コーサイ

— 親松誠一社長に聞く



親松誠一社長

今回は今年4月に創業50周年を迎え、代表取締役社長に就任した建築金物設計、製造、工事の(株)コーサイの親松誠一社長にお話を伺った。社長就任に際しての抱負など、今後の経営への取り組みについてお聞きした。

(聞き手：札幌支店情報部 柳澤康行)

— 会社創業の経緯と業務内容についてお聞かせください

当社は、今からちょうど50年前の1965年（昭和40年）4月に私の父の親松茂（現・代表取締役会長）が26歳の時に創業した金物店「幌西金物」を母体としています。その後、67年に幌西金物(株)として法人改組。75年に幌西金属工業(株)に商号変更し、現社名となったのは97年6月のことです。

創業当初の社屋は札幌市中央区南8条西12にあり、社名は近くにあった幌西小学校の校名に由来しています。創業時の社員はわずか3名。その後、各種建築金物の設計・製造、販売・取り付け工事に本格的に乗り出し、現在では本店に併設した第一・第二工場のほか、中沼工場（札幌市東区）において部材の製造に携わっています。

主として、ビルやマンション、学校や戸建住宅のほか百貨店などの商業施設向けにステンレスやアルミ、真鍮・鉄・銅などを素材とする鋼構造物や装飾金物などの製作・取り付け工事を行っています。大手ゼネコンや地元の建設会社

などを得意先としており、個別の受注に応じる形で建築金物のほかに看板や内外装、モニュメントなどの製作も行うています。

普段は何気なく目にする建物の造作物や看板、モニュメントなどにも実は当社の技術が反映されています。特に公共施設やビル、マンションなどで用いられている手すりの分野では道内での市場シェアは高く、およそ95%を占めています。また、道民であれば、1度は目にしておられるかもしれない北海道拓殖銀行の店名プレートも全道124支店の全てを当社で製作いたしました。レーザー加工が普及した今日ではわずか1日程度で作製が可能ですが、当時は流し込み技術など弊社にしか出来ない手法も多く、半月ほどの工程を必要としました。

— 半世紀にわたり仕事を続けてこられた背景には御社の技術力があると思います。これを継承するために必要なことは

このような当社の技術は、現場で製作に携わる熟練工に支えられています。まさに匠の世界でもありますが、脈絡と受け継がれた技術があるからこそ、現在の当社があるといっても過言ではありません。

物づくりにおいて一番大切なことはどのようなことでしょうか。それはお客さまの要望する内容の細部にわたり、まさに痒いところにも手が届くような対応が確実にできるということではないか、と思います。当社は、「お客さまの孫の手になる」を合い言葉に物づくりをしてき

ました。個別のオーダーや要望に対して当社の技術の粋を集めてそれに応えるということなのです。

そのためには、技術や技能の伝承を次の世代に対して確実に行っていかなければなりません。少子化が進みこの業界においても人手不足が顕在化しています。また、技能職の高齢化も進んでいます。これらの課題を解決するために、新たに門戸を叩く若い人に向け、物づくりという視点からこの業界の魅力を伝える積極的なPRを行っていききたいと思います。また、社内においては熟練のノウハウを伝えていくために一定の年代となったら、後継者育成を意識した役回りができるよう配慮をしています。

私としては、若い人向けに将来的には技能職育成のための学校を立ち上げたいとも考えています。

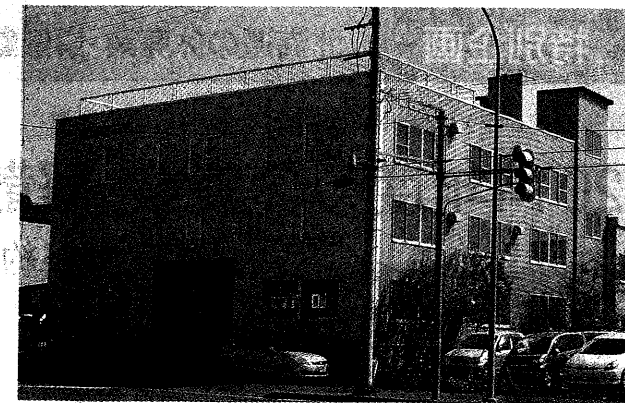
— 今年4月に代表取締役社長に就任されました。今後の抱負についてお聞かせください

お陰さまで、今年4月で創業50周年を迎えることができました。これを機に父に代わり、私が代表取締役社長に就任いたしました。

半世紀にわたり仕事を続けてこられたのもひとえに、得意先や従業員などの人に支えられてきたお陰とっております。また、私も弊社に従事して30年経ちますが、これからも「ありがとうの感謝の気持ち」を忘れずに業務に邁進したいと思います。

当社の手がけている建築金物やモニュメントなどは普段は目の前にあってもあまり意識しないで通り過ぎてしまう、いわば一般的な感覚では、「ごく当たり前のもの」が中心となっています。しかし、建築物には絶対に欠かすことができないものばかりで、今後も目立たずとも決してなくなることはない分野です。

街や商業施設などに行けば、さまざまな建築金物や造形物、モニュメントなどがありますが、社員の子供が目にしたら「これはお父さんが作ったものだ」と誇れるようなものをこれからもずっと作っていききたいと思います。



本社屋

また後継者や若い人を育てることが大切だと申し上げましたが、これまでの技能を継承することと併せて、若い人が持つ鋭敏な感性やデザインを製作工程にも積極的に取り入れるなどして、新たな領域を開拓するとの気構えで、仕事に臨みたいと思います。

お陰さまでアベノミクスの恩恵もあり、道内の景況も比較的堅調に推移をしています。当社の業務は民間の設備投資の動向などともリンクいたしますが、受注面では多少なりとも手応えを感じることができるよう状況が続いています。

今後もお客さまからは、技術面も含めてさまざまな要望が寄せられるかと思っています。当社では個々の案件に対しては全力で対処をしていきたいと思っています。

これからもどうぞ当社を宜しくお願い申し上げます。

— 本日はどうもありがとうございました

会社概要

(株)コーサイ
企業コード：010018054
本社：札幌市東区東雁来8条1-16-10
電話：011-791-3243
FAX：011-791-0432
<http://www.kk-kosai.co.jp>